

4 エルサルバトル

エルサルバトルは太平洋に面し、北西をホンジュラスに、東をグアテマラに接した人口約570万人の中米の国である。エルサルバトルは1980年代には内乱が続いていたが、1992年に平和協定によって終結した。その際、軍事組織とは別にPNC（市民国家警察）が1991年4月27日に旧治安機関に代わるものとして平和協定の結果の一つとして設立された。

1991年に行われた協定はアメリカ合衆国国務長官によって支援された。彼の支援はエルサルバトルにおける軍事組織の本質的な修正と都市及び郊外の地域での運営、市民への平和と安全の供給及び市民権限による管理体制をも含んだPNCの設立と関連付けられた。これはPNCと軍隊が独立していることと異なる省庁に属することを包含していた。

平和協定は国家憲法の修正に必要な248条項から成り立っており、これらの修正条項は立法議会によって全員一致で可決された。4月30日には長い論争の末、議会は新しい警察組織の設立に関する国家憲法の修正案を可決した。修正憲法第159条によれば「軍隊とPNCは別個の省庁に属する。PNCは軍隊から独立し、いかなる政治的結社の活動から分離された専門の組織でなければならない。」とされている。

(1) PNCの公園における交番制度

エルサルバトルの危険な地域において、日本の交番制度を基にしたPNCにおける交番制度は企画の初期段階として運営された。この企画の考え方は安全供給、強盗予防、負傷者及び迷子の救助であり、市民はCHATに助けを求め、そして、事案報告に来ることができる。

CHATは24時間体制で、8時間交替の6人の警察官によって運営されている。PNCのCHATは3つの地区の中で、他の警察官と連絡するための通信機器を装備している。お互いのCHATは「121緊急部隊」を支援するパトロールカーを保有し、また車両内に警察活動を容易にするためのオートバイを装備している。

有線電話と緊急通信機器は必要不可欠なものであると同時にこれらの機器はギャングに対する他の企画を支援する活動にも活用している。市民に責任を持って活動するためCHATの職員は公共の一部となっており、彼らは精神衛生、人間関係、救急法、護身術について継続的に訓練を行っている。

(2) 121 緊急部隊

1994年、エルサルバドル共和国の都市部における不法行為の最も高い水準に対する対策として「121 緊急部隊」が配置された。国家安全省はこの部隊の活動の範囲を評価するため直接関与し、この結果、緊急部隊は国家的な管轄地域を持った。

121 緊急部隊は、市民に対する迅速かつ効果的な奉仕活動、管轄内の警戒活動、治安維持を任務とする。また、地域社会における安全な環境を獲得するために犯罪及び違法行為と闘わなければならない。

121 緊急部隊は主に3つの要因に基き活動する。

- ① 121 緊急通報システムによる通信指令
- ② 市民からの直接の訴え
- ③ 下命を受けた環境下での直接の監視

かつての指令は部隊を報告された地区への事案の確認のため派遣するためのもので必要に応じて部隊は事案に着手した。121 緊急部隊の警察官の主な活動は恒常的なレベルの支援活動である。121 緊急部隊は専門部隊の要求にもかかわらず必要に応じて専門部隊を支援するため事案の予防に参加することができるほか、現場保存、目撃者確保、容疑者の拘束、証拠物の保全及び犯罪情報収集のためのいかなる活動も初動捜査として行うことができる。

121 緊急部隊は首都圏をカバーするが故に、4方面44地区に分割した管轄区域で活動している。市民は都市部のすべてのセクターの中で部隊が常時配置されているという事実のために、いかなる場所・場面において121 緊急部隊の存在に気が付くことができ、即座にサポートを受けることができる。

5 オーストラリア

オーストラリアの警察は主にコミュニティを基盤とする防犯活動、特別な相手に対しての行き届いた救済活動の提供によって発達してきたネイバフッド・ウォッチ（近隣を守る自警団）はまだ歴史が浅く、実験段階である州もあるが、迅速に普及しつつある。コミュニティ・ポリッシングは昔ながらの警察活動に変化を与えていないが、外勤警察官の最小限の再配置や警ら活動の再教育はなされている。概して、コミュニティ・ポリッシングは州警察本部で増設されている防犯部隊に代表されるが、小規模ながらも現在普及しつつある専門的活動である。

一般大衆に対するフィードバックはオーストラリアでは選択的であり重要ではない。唯一の明確な仕組みは多様な涉外担当警察官とオーストラリア原住民、同性愛者、移民のように警察と緊張した関係になりがちなグループの連絡会の存在である。危機対応以外の場合にはフィードバックは地域の警察活動にはあまり影響力を持たないようだ。オーストラリアの近隣自警団プログラムは一般大衆から州レベルまでの連絡組織を形成したが、これにより警察に対して報告義務を持たせ、確実に警察に関連した企画に活力を与える。新規のプログラムを考える気呼び覚まし、古い慣行に疑問を持つ意味で現在はオーストラリアの警察活動にとって非常に創意豊かで実りが多い時期であり、警察は刷新を行う兆候が見られる。オーストラリア警察はコミュニティポリッシングの含蓄に敏感であり、その言葉の持つ意味を模索しつつある。警察内においても抵抗は大きく、最初のうちは警察支持派の一般大衆を動員することに焦点を当て、コミュニティ・ポリッシングと実施中の警察活動とを区別することにより受け入れられた。

6 カナダ

カナダにおけるコミュニティ・ポリッシングの持つ意味は強力であるがプログラムの発達は不完全である。その中で代表的なものとしてはトロントとハリフォックス警察による区域を基盤としたチーム・ポリッシングの設立であり、両警察はエドモントン警察、モントリオール警察、ウィニーペグ警察及びビクトリア警察と同様に巡回活動を再導入して、通りに面した店舗に対する警察活動を始めた。巡回プログラムは指導管理された警ら活動の基盤として地域の犯罪分析を強調している。ハルトン地方警察は人員分割配置を導入し、緊急通報とサービス要請の電話とを区別することにより、それぞれ異なる警ら班によって処理させている。犯罪防止運動は頻繁に行われるが、コミュニティへの系統的なフィードバックの発達はほとんど関連がない。

法務次官室に勤務するクリス・マーフィーは世界のあらゆる場所で見うけられるようなカナダのコミュニティ・ポリッシング運動に関して人々を承服させた。コミュニティ・ポリッシングは革新的な上級・中堅層の警察官により主に組織改革の戦略として着手されたものである。マーフィーは「コミュニティ・ポリッシングとは地域警察活動における警察の担う役割の改革であるのと同様に、将来の組織・運営改革の起点である。」と述べている。コミュニティ・ポリッシングは警察部内の改革支持者により主張される内部改革を正当化している。